



県中いわて

令和3年11月26日 / 第255号

- 発行／岩手県中学校長会 ●代表／松葉 覚（盛岡市立下橋中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
- 印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

中文連だより

県中文連の活動

岩手県中学校文化連盟
会長 松葉 覚



岩手県中学校文化連盟が発足して20年目の今年度、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各地区中文連と連携を図りながら活動を推進して参りました。

特に今年度は、多くの皆様のご理解とご協力をいただき、8月19日～20日の2日間、大会テーマ『イーハトーヴに吹く文化の風 ～岩手の「感謝」を全国へ～』のもと、第21回全国中学校総合文化祭岩手大会（兼 第20回岩手県中学校総合文化祭）を開催することができました。

平成23年3月11日、本県沿岸部にも甚大な被害をもたらした東日本大震災津波。同年8月「岩手から光を！」を合言葉に本県で初めての全国中文祭が開催されました。あれから10年、全国の皆様からの支援により本県は少しずつ復興を遂げてきました。今年の全国中文祭はこれまでにいただいた支援に対する感謝を伝えるために開催されました。

しかしながら、大会直前の8月、昨年から続く感染症の波が全国的に広がり、本県でも独自の「岩手緊急事態宣言」が発出され、大会会場である岩手県民会館も閉鎖の事態となりました。昨年度は中止となった全国大会、中学生の文化芸術活動発表の機会を何とか保障したいという想いから、観覧者の限定、会期の縮小という更なる感染対策を講じて開催いたしました。このような状況下ではありましたが、舞台発表部門は35団体（映像出演5団体）、展示発表部門は1248作品となり、会場は全国の中学生の熱気に包まれました。また、被災した県内中学校の復興の様子を写真でまとめた「復興のあゆみ展」も行い、大きな反響をいただきました。全国各地から参加した生徒に喜んでいただいたことは、開催県として非常にうれしいことであります。

さらに、例年行われている県中文祭と同様に、今

回の全国中文祭でも中学生が主体となり大会を運営しました。事務局校である下橋中学校の生徒と盛岡市内協力校7校から生徒24名の生徒が加わり総勢170名が8つの係に所属し、リハーサルと大会当日の4日間に渡り「感謝」と「おもてなし」を合言葉に運営に当たりました。

このように、コロナ禍にありながらも本県の中学生たちは、岩手の「感謝」を全国へ伝えることができました。この陰には、県内各地区中文連の協力と支援があったからだ実感しています。本当にありがとうございました。加えて、各地区の発表会等は、地区の状況を踏まえて開催の有無を決定したと聞いております。決定に至るまでに様々な苦労があったと思いますが、各地区の判断は適切だったと思います。来年度こそは、全ての地区で開催できることを願っております。

結びに、本連盟は、県中学校長会や各地区中文連と連携を図りながら、本県の中学生が文化活動でも益々活躍するよう力を尽くして参ります。これからもご協力とご支援をよろしくお願い致します。



中体連だより

県中体連の活動

岩手県中学校体育連盟
会長 橋場 中士



新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大会史上初となる県中総体の中止を判断した昨年より1年が経過し、今年2年ぶりに開催することができました。関係する多くの方々のお力添えにより、7月17日～19日を主会期に県内8市3町を会場として参加校146校、選手5,555人が参加しました。

今年度は、中央開会式を中止し、式典の簡略化を図ったり、参加チームを削減したりするなど、大会規模を縮小した形で開催しました。また、会場への入場制限についても講じたところです。そのような中でも、選手たちは大会が開催されたことに対する感謝の気持ちを発しつつ、会場内では、日ごろの厳しい練習によって培われた技術や精神力を支えに、熱のこもった白熱した競技が展開されました。

また、8月には東北大会が開催され、本県では一関市でバスケットボール競技、盛岡市・岩手町・滝沢市で軟式野球競技を開催しました。各会場とも競技団体や地元中体連の皆様の献身的な準備と運営により、成功裡に終了することができました。大会全体を通じた本県の活躍は、団体4競技、個人17種目において東北チャンピオンに輝き、その力を存分に発揮しました。

さらに、1年延期して開催された東京2020オリンピック競技大会とパラリンピック競技大会の会期の間に、全国大会が関東ブロックにおいて開催されました。新規感染者が急増している中、多くの都県で緊急事態宣言が発令されている時期と重なり、様々な対策を徹底しつつ開催された大会となりました。本県からは14競技に総勢199名が参加しました。

その結果、城西中の高橋美月さんが陸上競技走高跳において跳躍種目初の栄冠に輝き、陸上競技11年ぶりの優勝を果たしました。また、中野中の長根慎人さん・鈴木煌さんペアがソフトテニス競技の頂点に立ち、県勢初となる快挙を成し遂げました。その他の選手も健闘し、男子ホッケー競技第5位に川口中、柔道女子個人同じく第5位に矢巾中の石川奈七子さん、陸上競技男子4種競技第7位に乙部中の谷口悠芽さんが入賞を果たしました。

これらの快挙は、本人の努力はもとより、ご家族の支援、顧問やコーチ、競技団体や県中体連競技専門部の指導・強化の賜物であると確信しています。「希望郷いわて国体」のレガシーが確実に受け継がれ、中学生の活躍が県内を大いに盛り上げてくれていることは、大きな感動と同時に頼もしさを感じているところです。

さて、現在学校では、各市町村で策定した「部活動の在り方に関する方針」に沿って活動を進めています。県中体連といたしましても、今後も県中学校長会や各地区中体連との密なる連携を図り、望ましい学校運動部活動の在り方についての情報共有や検討を進めつつ、国等の動向にも注視しながら、引き続きたくましく人間性豊かな中学生の育成に取り組んでまいります。



県中駅伝
女子ゴールの瞬間



県中総体
バスケットボール男子



県中駅伝 男子スタート



県中総体 女子ホッケー

私の学校経営

全教職員の英知で

釜石地区 佐々木 猛 (釜石中)



少子高齢化やグローバル化の進展など社会の急激な変化に伴い、学校には、これまでに直面したことがない課題に対応することが求められています。一方で、昨年初めから続くコロナ禍のため、教職員のコミュニケーションが希薄になりがちな現状を踏まえ、今年度、校長として「全教職員の英知を結集した学校づくり」をテーマに掲げ、以下3点を中心に取り組んでいます。

1つ目は、校長の思いを全教職員に浸透させることです。英知を結集した学校づくりでは、検証可能で明確な学校教育目標を掲げることが大切ですが、それとともに、学校経営についての校長の心が教職員に染み渡ることも大切だと考えています。職員会議、職員朝会等、機会を捉えて校長の思いを語るようにしてきました。例えば年度初めの職員会議では、

*私たちの願いは、子供たちが「生まれてきてよかった」と言える人生を送ること

*学校の教職員は、「人として温かく、専門職として厳しく」

2つ目は、全教職員の願いを学校経営に反映させることです。そのために、節目節目でワークショップを開催し、教育活動について協議をしています。特に、新年度計画策定において、改めて、目指す生徒像や育むべき資質・能力等についてワークショップで協議することは、全教職員が参画する学校経営に欠かすことができないものです。

3つめは、一人職の教職員と日常的なコミュニケーションを深めることです。一人職の教職員は、校長には持ち合わせない角度から職員室や生徒を見るという強みがあります。一人職の教職員からの情報は、校長にとって大変貴重なものとなります。

学校が全教職員の結晶体として光り輝くよう、校長として職責を果たしたいものです。

私の学校経営

「誨而不倦」を宗とする

二戸地区 工藤 久尚 (一戸中)



本校では、「自学、博愛、剛健の精神をもち、自己実現を達成しようとする生徒」を育てることを学校教育目標としています。この目標をめざし、私自身が継続した取組を進めるために、年度当初の職員会議で示した次の項目については、毎月教職員に提示しています。

- 1 感染症対応が求められる状況を踏まえる (1)すべての生徒と保護者が安心感を抱ける学校づくりをめざす (2)すべての生徒に学びの保障ができる学校づくりをめざす
- 2 同僚性を高め、学校教育目標の達成をめざす (1)昨年度の反省をもとにした計画を実行する (2)教職員間のお世話様、お互い様の精神で仕事にあたる
- 3 研究主題「学び合いの中で自分の考えを表現できる生徒の育成～ICTの活用を通して～」に基づく取組を推進する (1)授業改善の継続と授業記録を意識した取組を行う (2)タブレット端末の利活用を想定した情報教育と指導くスキル面、安全(モラル)面を継続する
- 4 紙・時間・水光熱費を節約する (1)無駄にしないように使う (2)減らせるものは減らす

それぞれの項目について、特に取組を強めたい部分については、月ごとに言葉を加えたり、資料を示すなどして理解と協力を求めています。めざすところを繰り返して提示することで共有と意識化を図り、個々の実践につなげていくようにしています。教職員の実践が、分掌業務の推進や日々の課題解決にとどまることなく、その先にある学校教育目標の達成をめざすものになっているようにしたいと考えているからです。

「誨えて倦まず(人に教えて怠らない)」は校長室に掲げられている書で、私は毎朝一読してから一日を始めています。「誨える」には、一つひとつの事柄を丁寧に、そして具体的に指導する意味があるということです。とてつもない高みであることをかみしめながら、寄り添う姿勢と行動を心に置き、できる限りのことをする覚悟と決意をもって、学校経営にあたっています。

新任校長の抱負

「安心な学校」を
目指して

気仙地区 蒲生 正光 (末崎中)



校長という職に就き、半年が過ぎました。引継ぎは受けていたものの、実際にスタートしてみると戸惑うこと、わからないことが多々あり、先輩校長のアドバイスをいただきながらなんとか現在に至っているというのが現状です。

年度当初、どうしても改めたいことがあり、変更を指示したりしているうちにどんどん口が動いてしまい、今までの積み重ねを考慮していたつものことにまでつい口に出してしまい、もう少し我慢していれば……と後悔することもあり、自分が空回りしていたのではないかと反省する場面もありましたが、何とか軌道に乗って現在に至っています。

さて、自分は校長としてどんな学校を作りたいか。私は一言でいえば「安心できる学校」を作りたいと考えています。生徒たちが安心して、安全に様々なことに挑戦できる学校。安心して、安全に自分の主体性を発揮できる学校。安心して、安全に自分の個性を磨き上げられる学校。安心して、安全に交流の輪を広げられる学校。安心して、安全に学習に取り組むことができる学校……。

それを突き詰めていったその先に、例えばいつの日か学校から決まりがなくなる日が来るといいなと思っています。学校が禁止事項を定めなくても学校がうまく機能し、生徒たちが安心して生活している、そんな学校。生徒たちが自分で判断していいこと、悪いことを見定め、それが社会的に適合した判断になっている。周りの楽に流されず、自分に必要な取り組みを自分で判断してそれに打ち込む……。

そして、それは教職員もまた同じ。

夢は大きいのですが、そのために自分ができること、よりよい職場環境の構築、教職員みんなが同じ方向を向いた教育課程の実践、そしてそれを実現するための方向性の提示、リーダーシップの発揮などなど……に一歩ずつ取り組んでいきたいと考えています。

新任校長の抱負

小規模校の活力

宮古地区 大越 淳 (川井中)



本校は宮古市川井の山間部にあり、昭和60年と平成17年の2度にわたって学校統合が行われた、学区が広い学校です。昭和60年には旧川井中・箱石中・川内中が統合し、統合初年度の生徒数は157名でした。統合後この年をピークに生徒数も減少し、平成17年の旧川井中・門馬中・小国中の学校統合の際には91名に、そして今年度は全校生徒13名です。今後数年は生徒数の大きな増減がないことに時代の流れを感じずにはられません。

4月に着任し、真面目で素直な優しい生徒たちと出会い半年が過ぎました。全校生徒が10名減少したこと、1・2年が複式学級になったこと、特別支援学級が設置されたこと等、昨年度との違いに年度当初は教職員も含め戸惑いが見られましたが、生徒会活動や行事を積み重ねていくことで活気が見られるようになりました。本校生徒会は「挨拶・合唱・ボランティア」を三大文化と掲げ、活動を展開しています。三大文化の一つ「合唱」は生徒数減少のせいか年度当初は元気のないものでしたが、様々な生徒会活動を全校で取り組むことを通して変化が感じられるようになり、1学期末の学校評議員への合唱披露・老人福祉施設への合唱ボランティア活動といった地域への合唱発信は、堂々とした姿でした。そして、文化祭に向けた取組を迎え、さらに磨きをかけ、当日には見事な合唱を披露し、参観者からとても温かい拍手をいただくことができ、生徒たちも達成感を持ってたようでした。コロナ禍ではありましたが、生徒との関わりを引き受けていただいた地域、保護者、関係団体の協力のおかげで、生徒の力を高めることができたと感じます。

この半年で改めて感じたことは、生徒会組織の活性化と地域、保護者、関係団体との協力体制は学校教育には不可欠であるということでした。今後も地域、保護者、関係団体と連携を図りながら、教職員と共に小規模校に活力を持たせるための努力をして参る所存です。

各地区校長会活動 NOW

胆江地区校長会



校長間の連携を重視した 会員組織を目指して

千葉 和仁 (水沢中)

1 はじめに

胆江地区中学校部会は、奥州市9校、金ヶ崎町1校の10校で構成されている地区です。今年度で旧江刺市の3校が統合して1校となるため、来年度から8校となります。学校数が減少する中で、学校経営や地域課題に対応していくためには、より校長間の連携を密にした組織力の向上が重要であると考え、会員相互の親睦と融和を図りながら活動しています。

2 本年度の活動方針

- (1) 学校経営研修の充実を図る。
- (2) 全日中・東北中・県中校長会の事業参加及び推進に努める。
- (3) 教職員の社会的地位の向上に係る研修機会を設ける。

(4) 教育関係機関及び団体と連携した教育諸条件の改善に努める。

3 主な活動内容

- (1) 定期総会・経営研究会（講演会）・研究発表会・地区校長会研究集録の作成及び発行
- (2) 事業への参加及び研究推進について（研究課題テーマ1年目）よりよい社会の形成者の育成を目指した特別活動の推進 ～自己肯定感を育む指導を通して～
- (3) 教職員の資質向上・行財政諸課題に係る研修
- (4) 諸課題に対応するための部会（地区行事等の検討）・中高連携会議（魅力ある地元高校への進学率を高めていくための意見交換）の開催

4 終わりに

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、年間計画に盛り込んだ行事や研修等の縮小や中止を余儀なくされている状況にあります。会員が一丸となって、より一層危機管理の意識を高めながら、会員相互の連携と情報共有を図り、活動を推進していきたいと思っております。

久慈地区校長会



結束力が自慢の 久慈地区校長会

松村 巖寿 (三崎中)

1 はじめに

久慈地区校長会中学部会は久慈市、洋野町、野田村、普代村の13校で構成されています。コロナ禍で活動が制限されている中、校長会として、生徒にいかに通常の活動を提供するかを模索し、力を合わせ知恵を出し合って取り組んだ1年でした。

2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を密にし、活動の充実と活性化に努める。
- (2) 保護者・地域住民と一体になった特色ある学校づくりの推進に寄与する。
- (3) 研究研修を充実させ教職員の育成と教育活動の活性化を図る。

(4) 関係機関や高等学校との連携協力を図り、その改善・推進に取り組む。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 年に4回全員研修会を開催し、情報交換と諸課題についての協議を行う。
- (2) 年に2回、中学校・高等学校長進路指導研修会を開催し、県立学校の施設見学や学校紹介などの情報交換並びに親睦会を行う。
- (3) 研究・研修の充実 研究テーマに基づいて研究を行い、学校課題に対応した実践により、校長の力量を高め各校の人材育成によるチーム力の向上を目指す。

4 おわりに

今年度、久慈地区校長会最大の成果はソフトテニス男子で中野中学校の全中優勝です。又、コロナ禍の中、県内で先駆けて地区駅伝と地区陸上を実施し一丸となって生徒の活躍の場を無くさないよう奔走しました。菊地会長を中心とした久慈地区校長会の硬い結束力が生み出したものだったと思っております。

各地区校長会活動 NOW

釜石地区校長会



相互の連携を図り、
『生きる力』を育むために

浅沼 寿典 (吉里吉里中)

1 はじめに

釜石地区校長会は、釜石5校と大槌2校の計7校の中学校及び学園で構成されています。中学校を取り巻く諸課題に真摯に向き合い、その解決に取り組むつつ、会員間の情報共有を密に行いながら、未来を担う生徒が将来への希望や生きる喜びを実感できるような学校経営の充実を目指して活動しています。

2 本年度の活動方針

- (1) 国や県の教育施策を注視し、特色ある教育活動の実施と復興教育のさらなる充実を目指し、学校間の連携を深める。
- (2) 校長としての見識、力量を高めるとともに、研究実践活動のさらなる充実を目指す。
- (3) 会員相互の連携と親睦を深め、組織を強化

するとともに事業の円滑な運営を図る。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 学校経営の充実と教育環境整備
国・県の教育動向を把握し、教育課程編成、学力向上、生徒指導上の諸課題解決、働き方改革など、その対応について情報共有を図る。
- (2) 職能研修の充実と各種団体との連携
① R4 県小中校長会研究大会釜石大会に向けた実行委員会を立ち上げ、県事務局との連携を図る。
② 年10回の経営研究会、年2回の中高連絡協議会、地区小中合同経営研修会等を実施し、関係諸団体との連携を深める。
- (3) 会員相互の連携と校長会の円滑な運営
会員の連携強化と各組織の活性化を図るため、会報「海原」・研究紀要「潮騒」等を発行する。

4 おわりに

収束が見えないコロナ禍において、学校経営についても困難な場面や難しい判断を迫られる場面が多くなりますが、会員相互の連携を深め、強力な協働体制を構築し、「できることを探る」意欲を持って活動を推進したいと思います。

一関地方校長会



連携・情報交換を大切に
学校経営の充実を

時枝 直樹 (一関中)

1 はじめに

一関地方校長会中学校部会は、一関市内16校、平泉中学校の計17校で構成されています。4月に6名の新入会員を迎え会員相互の情報交換を密にしながらか学校経営の充実のために活動している。

2 本年度の活動方針

- (1) 学校経営上の課題解決に努め、適切な学校運営にあたり中学校教育の振興を図る。
- (2) 会員相互が情報や資料提供を行い、現状や課題を的確に把握し充実した学校経営に努める。
- (3) 部活動の在り方、働き方改革等について積極的な情報交換と改善に努める。

3 本年度の活動内容

- (1) 学校経営の充実資する研修会 年6回

- (2) 中高・特支・高等専門学校連絡会研修会
- (3) 学校経営に係る情報交換

4 学校経営上の課題解決に向けて

本部会は一関市教育委員会と連携を密にすることを心がけている。感染症対策では校長会代表と教委間で協議のうえ、取組の上限を設定し、各学校は其中で生徒、保護者、地域の実情に即して判断している。また、グループウェアの校長間での書き込み機能を活かして、全体の課題になりそうなことは随時情報共有している。そして、必要に応じて一関市教委と協議して解決を探っている。各学校の実情は異なるが校長としての考え方や取り上げる視点を共有することが、正しく判断することにつながっている。このことによって校長としての力量も高まるとらえている。

5 終わりに

校長は各学校の状況を捉え的確に判断することが求められている。感染症対策をはじめ諸課題への対応が必要な状況であるので、より会員相互の連携・情報交換が学校経営の充実大きく関わると考え、本部会の活動を推進していきたい。

「令和2年度における生徒指導の諸問題に係る調査」の概要

生徒指導部

会員の皆様のご協力と生徒指導部地区担当者の皆様、幹事の方々のご尽力により、令和3年度の本調査（調査対象：令和2年度）の『結果と傾向』をまとめることができました。心から感謝申し上げます。

以下、調査結果の概要を紹介いたします。

1 各学校の生徒指導の状況

「問題行動があった」と回答した学校が40%（60校）、その中で「3件以上あった」と回答した学校が23%（34校）で平成26年度以降最も高い数値となった。令和3年度の予想は、半数近くの学校で問題行動の心配があると回答している。各学校では、危機感を持って、生徒指導の充実を図る必要がある。

2 対教師・対生徒への問題行動

「対教師への問題行動」の合計人数は24人であり近年の中で最も少なかった。男女比も例年と変化はない。令和元年度に比べ「授業妨害」と「教師に対する嫌がらせ」が減少しており、生徒の特徴を捉えた対応が進んでいることが推測される。

「対生徒への問題行動」は令和元年度と比べて、暴力行為251→177人、嫌がらせやいじめ行為661→327人、示威的に校舎内外を徘徊14→5人と減少したが、金銭や物をまきあげる行為は10→19人と増加した。

3 怠学等の問題行動

「怠学」「対物」は、近年と比べ大きな変化はない。「校則違反」は、令和元年度に比べ半数以下であり、近年では最も少なかった。新型コロナの影響もあるのか、遊技場への出入りが減少しているのが特徴的である。一方、「外泊」や「交友」に関連した項目が増加に転じるなど、一般的非行の数に若干の増加が見られる。インターネットやLINE等に関連した問題行動、不登校・不適應の実態を踏まえながら総合的に判断した生徒指導の充実が一層求められる。

4 いじめ問題の状況

いじめの認知数の総数は前年とほぼ横ばいの状況である（1355→1347）。学年別では過去3年間同様の傾向が見られ、1年生でのいじめの認知数が最も多かった。

いじめの解決率は1・2年生が91%、3年生は88%で、学年が上がるといじめの解消が難しくなってくる傾向が見られる。

いじめる側の態様は、件数が若干減少（前年比

-69件）している。その中で「ひやかしやからかい」が54%を占めており、いじめの比較的初期の段階で認知できていたことが推測される。また、ネットいじめはそれほど多くの件数が認知されていない（4%）ものの、SNS特有の秘匿性のため十分に把握しきれない状況や、スマホ等の所持率の高さも考慮し、継続した情報モラル教育の充実が必要である。

5 不登校の状況

理由の上位は、「神経症的拒否と思われるもの」が最も多く、これまでと同じ傾向である。

学年別の状況は、中1での不登校生徒数がここ数年増加傾向を示しており、小学校との連携が大切である。

出現率は、小・中・大規模校いずれも前年度より増加し、特に小規模校では0.51%増の3.27%であった。いずれの規模においても出現率が3.0%以上となり警戒すべきレベルである。

不登校生徒に対する指導の態様では、昨年度と同様「相談機関との連携」が最も多い。尚、中・大規模校では「病院等の医療機関との連携」がそれぞれ78%、100%であり、ここ4年間では最も大きな値を示した。

6 情報機器の利用

携帯電話・スマホの利用によるトラブル内容では、ネット依存が48.3%（前年比+7.6）で最も高い割合となった。次いで、ネット上の書き込み（同+3.0）、SNS等に関わるトラブル（同-2.3）がともに47.7%であった。ネットに起因した人間関係の問題にとどまらず、依存という「個」に関わる問題について一層注意し、医療機関等と連携した対策を進める必要がある。

7 児童虐待・クレーマー等

今回、ネグレクトが16.8%（前年比+4.8）で最も高い割合となり、次いで身体的虐待が13.4%（同-4.6）であった。昨年度「モンスターペアレント、クレーマー等で困っている（いた）」は減少の傾向を示したが、今回は12.1%（前年比+2.1）で増加に転じた。対応についてSC、SSW等との連携も一層必要である。

絆 きずな

令和3年度沿岸被災地訪問報告

令和3年8月4日（水）・5日（木）に、岩手県中学校長会常任理事等10名が被災地（沿岸南部）の中学校等に訪問してきました。訪問先は下表の通りです。

この訪問は、東日本大震災津波以降、全日中と県中役員が実施してきたことの一環です。この訪問において、現場の校長から直接お話を伺い、復興状況を肌で感じることで全日中及び県中が組織として被災地の中学校にどのような支援ができるのかを考え、共に学校経営の充実を目指してきた活動でもあります。ただ、昨年度と今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、全日中役員の来県が困難となり、県中役員のみで訪問しました。

情報交換において、釜石市の中学校では、「絆会議」を設置し、中学生が自分たちの学校をどのように発展させていくか主体的に考えていること、大槌町の中学校では「ふるさと科」といういわば「命の教育」

とも言える教科を設定したことにより、郷土を知り、愛し、創っていく生徒を9年間の小中一貫教育で育んできている手応え等が語られました。また、気仙地区では中学校の統合が年々進み、人口減少に伴う生徒減少が急激に進んでいる実態が語られ、さらに、合同部活動、学区が広がったことに伴う通学の安全確保、避難経路の工夫等も話題となりました。

釜石、気仙地区の双方に共通することとして、震災後のハード面の整備に関して未だに学区内の道路工事等が行われており、安全指導の充実が不可欠であることや、子どもたちの生活の様子からは、家族の影響からか、心のサポートを要する生徒が震災から10年以上たった現在でも一定程度存在していたことでした。また、当該地区の各学校の状況を県教育委員会、市町教育委員会等の配慮から、引き続き教員等の加配に加え、スクールカウンセラーや支援員の継続配置への感謝の言葉がありました。

日程	訪問先等	備考
8月4日 （水）	○釜石市立釜石東中学校にて釜石地区校長会との情報交換 ○釜石鶴住居復興スタジアム視察見学 ○大船渡市立東朋中学校にて気仙地区校長会との情報交換	地区校長会長挨拶、代表者から地区校長会の説明、各校長から学校経営の特徴報告等
8月5日 （木）	○陸前高田市立高田東中学校にて校長との情報交換 ○岩手県立野外活動センター（愛称：ひろたハマラインパーク）視察見学 ○陸前高田グローバルキャンパス視察見学 ○震災遺構（旧気仙中学校）視察見学	復興教育の実践説明、本年7月に開所した施設に関する説明等、学校以外の機関と連携した学び、震災遺構の価値体感等



釜石市立釜石東中学校での校舎掲示



釜石地区校長会との情報交換



気仙地区校長会との情報交換



大船渡市立東朋中学校玄関にて



陸前高田野外活動センターから海を望む



震災遺構 旧気仙中学校